

(様式第1号)

市民との意見交換会実施報告書

開催日時	令和 6年 2月 1日 (木) 13時30分～15時30分			開催場所	出羽庄内国際村 大ホール	
出席議員	氏名	役割	氏名	役割	氏名	役割
	田中 宏	司会	佐藤 麻里	受付		
	佐藤 久樹	会場設営	石井 清則	報告書		
	長谷川 剛	写真撮影				
欠席議員	小野 由夫					
テーマ	コミュニティセンター及び地域活動センターの現状と課題 (センター職員の処遇・働き方及び防災・減災)					
団体等の名称	コミュニティセンター及び地域活動センターの事務局長等				参加者数	31人
実施内容 (概要等)	参加者及び議員を5班に分けて、ワールドカフェ方式により、①コミュニティセンター及び地域活動センター職員の処遇・働き方と、②当該施設の防災・減災の取組に関し、参加者から現状や課題と感じている内容について聞き取りを行った。 詳細な内容は、別紙のとおり。					

※主な意見及びその回答は、別紙のとおり

令和6年9月2日

鶴岡市議会議長 様

市民文教班 代表者 田中 宏

○ センター職員の処遇・働き方について

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
【賃金について】 ①「時間外」の制度はあるが、予算がないので支給できない。代休を取ろうにも、その時間もない。		○			地域のために若い人材を雇用したいが、低賃金のため、なり手がいない現状を訴える声が多い。 また、理事会などで報酬アップを提案する際に、市としての基準があると説明しやすいとの声がある。
②労働条件が悪く、センター職員を募集しても若い方からの応募が期待できない。この状況について市の考えを知りたい。			○		
③まちづくりには若い人の力が必要だが、センター職員の給料が高卒初任給より低い状況ではまちづくりが進まない。			○		
④給料の昇給ができない。		○			
⑤9年間で1万4,000円しか昇給していない。		○			
⑥給与が低い。高卒初任給程度であり、最低賃金以下である。		○			
⑦賃金が安い単価で積算されており、民間企業の新入社員より少ない。物価高騰の中、年数に応じた給与体系になっていない。人件費を加算費用とすることができるようにしてほしいと連名で市に要望書を提出したが、回答はない。			○		

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
⑧基本給を上げないと若い世代を雇用することができないので、市で基準を決めてほしい。			○		
⑨事務局長は非常勤の雇用となっている。報酬をアップしてほしい。		○			
⑩賃金は毎年 1,000～2,000 円上げているが、残業代をつけることができない。		○			
⑪最低レベルの賃金しかもらっていないが、夜の時間帯は時間外をつけることができる。日曜は職員の休暇にして、シルバー人材センターに依頼している。		○			
⑫この4年間で賃金がアップしていない。自治振興会等会長には年間 10 万円の定額を払っている。		○			
⑬1 万 3,000 円～1 万 5,000 円のボーナスを支給することはできているが、基本給をアップさせたい。		○			
⑭なり手不足の解消に報酬のベースアップは必須である。		○			

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
⑮地域内の理事会などで、報酬アップを提案する根拠とするため、報酬基準がほしい。			○		
⑯職員が2人退職したため、職員の募集をしたが、最低賃金と交通費程度の給与しか支払えないこともあって、地元住民の中ではこの条件で働きたい人がおらず、結果として、地域外採用となった。		○			
⑰働く時間数によっては、月給が最低賃金（時給換算）を下回る場合がある。		○			
【働き方について】 ①夜間・土日の会議が多く、子育て世代・介護世代には働きにくい環境である。		○			地域密着型の施設だけに、職員の負担が大きいうだ。なり手不足の解消には、働き方改革が必須だと考える。
②地元職員が多く、朝夕・休日を問わず職員に直接連絡や依頼が来る。		○			
③月1回の休館日にしか休めず、代休も取れない。		○			
④日曜日を休みにしているのは良い。		○			

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
⑤月曜日を休みにしているが、しばしば祝日と重なる。		○			
⑥時間外手当か代休か、職員によって希望が異なるので柔軟に対応している。		○			
⑦子育てが終わっているから、労働時間としては問題がないし、希望日の休みも取りやすいが、土日は行事が多いため休めない。		○			
⑧時間外等は代休で対応できることになっているが、休みを取れる時間がなく、現実には休めない。		○			
【交付金・委託料について】 ①市からの交付金・委託料が、物価高騰・社会情勢の変化に追いついていない。			○		「交付金や委託料が物価高騰・社会情勢の変化に対応できていない」との批判が複数ある。また、コロナが収束し、地域活動が増えている現状に見合った額にする必要があるのではないか。
②委託料は、市からの業務委託件数の多寡に関係していないため、業務量が多いと委託料に見合わなくなる。			○		
③要員費が横ばいだが、事業が復活しており、事業費が予算を圧迫している。要員費を増やしてほしい。			○		

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
④職員の算定基準の見直しをしてほしい。			○		
⑤コロナが収束して以降、活動が増えているが、交付金は変わらないので、残業代を支払うことができない。			○		
【その他】 ①福利厚生がない。		○			「市に要望しても返答もない」 との声があるため、現場を担う 方々に敬意をもって対応する必 要があるのではないか。
②主催事業の予算が少なく、景品が買えないなど活動が困難になってきている。		○			
③会議が増えているため、会議費が予算を超過している。		○			
④自治振興会等会長が出席するときの費用負担の対応に苦慮している。出席依頼や会合費も増加している。			○		
⑤合理化を進めようにもシステム導入費用が高い。市としてシステムを作ってほしい。			○		

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			各班からのコメント（自由記載）
		I	II	III	
⑥自治会の協力金について、コロナ禍以前は1軒当たり年間7,000円であったが、コロナ禍は一時年間4,000円まで下げ、来年度は5,000円にする予定。過疎債は、朝日地域があったから適用できた。朝日地域にもっと配分してほしい。		○			
⑦市役所の各部署からバラバラに依頼が来る。締切までの期間が短すぎると負担が大きい。余裕のある締切にしてほしい。			○		
⑧「就業規則」を時代に合わせてアップデートする必要がある。		○			
⑨センター職員の立場や肩書が不明確である。「団体職員」となるのか。			○		
⑩施設を施設した後の「鍵」の管理について、良い事例があれば参考にしたい。			○		
⑪地区公民館から地域活動センターに移行するときに、住民負担は求めないという約束だったと聞いている。		○			
⑫住民から活動費は集めているが、人件費には使えないことになっている。		○			

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
⑬行事ごとに参加費を集めて、足りない予算を補っている。		○			
⑭建物が老朽化しているセンターが多い。			○		
⑮後任のセンター職員が見つからないので、地域貢献の気持ちで頑張っている。		○			
⑯住民から負担金をもらっているが、1人世帯が増えてきて困っている。		○			

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

○ 防災・減災について

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			各班からのコメント（自由記載）
		I	II	III	
<p>【避難所について】</p> <p>①一次避難場所が雨風を防げない場所にあり、さらに土砂災害の不安もある（沿岸部の方の意見）。</p>			○		<p>各地区、具体的な課題や懸案が見えているが行政の対応が遅れているようだ。</p> <p>地区ごとに、実態に即した対策を検討し、市との調整を経て、実効性のある地区防災計画として作成することが急務である。</p> <p>県立学校など避難所に指定されている施設との調整は、市が主体となって責任をもって速やかに進める必要があるのではないか。</p>
<p>②津波警報が解除される前に帰ろうとする住民に対して、どう対応したらよいか分からなかった（避難所に留まらせる拘束力がない）。</p>			○		
<p>③水や食料、毛布、AEDなどの備蓄品が不足している。</p>			○		
<p>④各自治会で防災用品等の備蓄をしている、または今後備蓄の予算を確保していかなければと考えている。</p>		○			
<p>⑤センターの建物が老朽化し、設備の不具合もあり、避難者を安全に受け入れられるか不安である。</p>			○		
<p>⑥発災時、郊外地では事務局長が鍵を開けることになっているが、センター職員が開けるのか自主防災組織が開けるか決まっていない所もある。</p>		○			
<p>⑦毛布や食料はあるが水が足りない。倉庫が狭い。水害だとセンター自体が浸水想定区域に入っている。</p>		○			

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			各班からのコメント（自由記載）
		I	II	III	
⑧ペット対策、トイレ対策、トイレトレーラーなどの準備をしてほしい。			○		
⑨二次避難所が廃校になった体育館だが、建替え要望してもなかなか実現できない。			○		
⑩朝日南部地区では、廃校が避難所に指定されているが、水道も電気も使えない状況である。			○		
⑪一次避難所が山の中腹にあり、令和6年元日の地震では風雨のため、警報解除前に帰る人がいた。		○			
⑫一度避難しても、その後の適切な情報提供がないと住民は帰ってしまう。			○		
⑬令和6年元日の地震では、市の避難所開設・運営マニュアルがあっても役に立たなかった。			○		
⑭旧由良小は危険である。ホテルと協定を結ぶ方が得策と感じた。			○		

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
⑮六小・一中が避難所になっているが、誰がどう鍵を開けるかなど不安な点がある。			○		
⑯避難所になっているが、訓練のときに貸してくれない施設がある。		○			
⑰避難所となっている中央高校と話し合いをしたが、見学しかできなかった。市と県で話し合いができていないのではないか。酒田では、県立高校にも最低限の備蓄はあると聞いている。			○		
⑱令和6年元日の地震の際には、避難所を地元の自主判断で開け、その後に市との調整が始まった。			○		
⑲いこいの村やスパールに行った人が多くいた。いこいの村はトイレ等を借りることができたが、スパールは、時間で閉められた。			○		
⑳だだちゃアリーナは避難所にならないのか。			○		
㉑避難所には、備蓄品は市の支給のものしかないし、期限切れになっている。		○			

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
②備蓄品は、自主防災組織の予算で増やしている。食料については、期限切れ近くになったら、会議等で使っている。		○			
【防災体制について】 ①藤島地域では、年1回合同避難訓練を行っていて、家族カードを作成し、要支援者を誰が避難させるかというところまで町内で共有できている。		○			防災計画や自主防災組織の形骸化を懸念する声が多い。また、市総合防災訓練をはじめとする、防災訓練の実効性を高めるために工夫・努力が必要だと思われる。
②もし災害が発生したら、対応について見当がつかない。研修が必要である。			○		
③自主防災組織は機能していない。コミセンが全体をみて「一緒にやろう」と働き掛けないと動けない。要救助者も助けられない。水や食料も少ししかない。コミセンと市の防災担当との連携が必要である。			○		
④発災時に誰が何をするのか、マニュアルが頭には入っていない。シミュレーションが必要。その上で、足りないものが出てくる。			○		
⑤毛布、発電機、釜があるが、一度しか使っていない。市の担当者と詳細な打ち合わせをしたい。			○		

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
⑥総合防災訓練を担当したが、やったという形だけで、実際のときに役立つものになっていない。二言目には「予算がない」と言われる。			○		
⑦消防や行政、警察など横のつながりを見直す機会や振り返りの機会が必要である。			○		
⑧（朝日南部・湯田川地区の意見として）土砂災害への対応に不安がある。			○		
⑨地区防災計画について、「形骸化しているので、更新が必要」との声が多数あった一方で、以下のような例もあった。 ・小堅：小波渡は孤立可能性集落である。令和3年に全面更新、「福祉防災マップ」とともに毎年アップデートしている。 ・大泉：令和6年2月、全面アップデートした。			○		
⑩訓練時は人手や物資がある状態で行うが、有事の際は、訓練と異なる状況であるため、訓練のようにはいかなかった。			○		
【地区指定職員について】 ①地区指定職員の参集基準が知りたい。			○		

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
②地区指定職員が誰なのか分からない。普段からのコミュニケーションが必要である。			○		地区指定職員とのコミュニケーション不足が課題である。地区指定職員が地区とどのような関係を築き、どのような役割を果たすことになっているのか、明確にする必要があるのではないか。
③地区指定職員は、訓練や有事の際にも一切来ない。			○		
④地区指定職員と話す機会がないので、普段からの連携ができる体制を取ってほしい。			○		
【その他】 ①近年大きな災害がない地区ほど防災意識が低い、という課題がある。		○			広域な面積を有する本市では、地区ごとの課題も多様である。実効性のある地区防災計画を住民主体で作成していけるように、市としてサポートしていくことが肝要である。
②女子更衣室を閉鎖して倉庫にしているので倉庫が欲しい。		○			
③建物は市の管理なので、建物が崩れたときの責任はどうか知りたい。			○		
④かつては個人宅に防災無線があったが、デジタル化により使えなくなったため、デジタル方式の防災無線を配備してほしい。			○		

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
⑤京田・栄地区は平地であることから、災害の危険性を感じておらず、防災訓練をしても現実味を持たせにくい。			○		
⑥センターが海の近くにあるので、元日の津波警報発表時に、避難場所からコミセンまで物資を取りに行くことができなかった。			○		
⑦センターが浸水想定区域に位置している。			○		

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの